

先日迎えた自分の誕生日。卒業生からメールをもらった。「お誕生日おめでとうございます」その方は卒業後、地域の福祉事業所に就労し、8か月ほど働き、縁あって、ある企業に就職してちょうど1年が経った方だ。偶然、三鷹駅で会い、「仕事頑張っています！」と元気よく答えてくれた。

彼が通っていた福祉事業所は、就労移行支援・就労継続支援B型、両事業の多機能型で、ダイレクトメールの封入、封緘、ラベル貼り、丁合い等の軽作業を、1日に万単位の仕事をこなすところで、集中して、真面目に仕事に取り組む姿が印象的だった。就労支援センターとも連携をして就職をした彼は、先日のむらさきOB会クリスマス会でも「2年目になりました！」と元気に報告をしてくれた。

障害福祉サービス（福祉的就労）では様々なサービスが展開されているが、ひとつの事業の中でも非常に幅があり、その内容は地域によっても様々である。バリバリ仕事をして、高い工賃をいただけるところもあれば、仕事とその他の活動をバランス良く行っている所もある。重度の利用者の方が多くても、地域の公園清掃に出て、一生懸命ゴミを拾い、ゴミ箱の周りに散らかっているペットボトルを回収するところもあれば、ほぼマンツーマンの対応で、その方の体調等に合わせて、軽作業や散歩、ドライブ等の活動を行っている所もある。どの事業でも共通して言えるのは、その方の充実した日中活動の提供、であると思う。

在学中に大切なのは、本人を中心に「家庭」・「学校」・「地域（企業・福祉事業所）」のそれぞれが情報を収集・交換・共有していくことであり、地域とつながるということは非常に重要なことである。